



今月の主な目次

- 未来の畜産・あなたが拓く自給飼料
- ルーメンファイブによる肉牛肥育
- 畜舎環境改善資材のご紹介
- 経営形態別の飼料作物栽培作型と適品種

- 豆類に適した葉面散布剤ジャックスパワーの効果
- ほうれんそう新品種スピードワンのご紹介
- 乳牛用サプリメント

時の話題

# 基本には忠実に 変化には対応を！

一九八〇年代前半は生活に役立つモノ、社会的に許容されるモノを作る差別化時代、一九八〇年代後半は、本質的に洗練されたモノを提供する洗練化・最適化時代、一九九〇年代は人生の舞台を彩るモノを提供する審美化・融和化時代と、そこには社会背景と、消費者の消費意識の変遷があります。

商品の背後には、生活者ありの生活者像があるように、社会の変化とともに酪農の形態も大きく様変わりし、乳牛の産乳量の飛躍的向上、多頭化飼育化、フリーストール・ミルクングパーラー化などの機械化、飼料作物栽培の機械化、輸入飼料の飛躍的消費量の増大など、五〇年前には考えられない変化をしており、また、近年はその変化のスピードが経営者の世代交代と相まって、社会の変化と同じように早まってきております。

しかし、社会が変化する波の中で、酪農経営の中で、変えてはならないものまで変えてしまっているケースが見られます。特に自給飼料生産の場で多く見られ、しいては、その影響で牛の飼養管理上の問題を起し、最終的には経済的損失にまでいたるケースが多くあります。

短期経済優先型で、乳牛・飼料作物等の生理を

無視した結果によるものです。

その基本となる飼料の生産、飼料の見極めに關する情報は少ないのが現状ではないかと思えます。乳牛の管理で牛が喜んで食べてくれるのが第一条件でありますが、現在飼槽に食べ残しの飼料があり、それが自給飼料であればそのクレームの改善は、飼養管理をしている畜主に向けられるべきでありますが：

乳牛の管理は、乳牛の産乳能力を發揮させ適切な繁殖を行う、二つのことを同時に行わなくてはなりません。また、飼料作物栽培は作物の肥培管理(飼料作物のエサ管理)をし、乳牛の良く食べるエサを作ることが基本となります。乾草を作る・サイレージを作ると言うことは、粗飼料を貯蔵する手段です。その飼料を使い飼養管理を行い、乳牛を健康にし、多くの牛乳生産をして利益を得るのが、酪農経営の求める一つで基本となります。基本は変わらないから基本であり、社会が変化しても変わらないもの、変えられないものであり、省けば省いたりの結果が現れます。

春の飼料作物播種期を迎え、自給飼料増産運動が実施されている中、自給飼料増産総合対策事業(条件整備推進型)、その他指定助成対象事業など、各種の補助金制度が実施されておりますので、有効に活用し、基本に忠実な飼料生産をお勧め致します。

情報過多気味の中、今一度酪農の基本を見なおしてください。

(東北事業部部長 内山幹夫)